



株式会社アイگران

プロフィール

- 社名:株式会社アイگران
- 設立:昭和62(1987年)年創業
- 所在地:広島市中区光南2丁目1-20
TEL:(082)503-6588
- 代表者:代表取締役 重道 泰造
- 資本金:5,000万円
- 従業員数:3,100名
- 事業内容:保育サービス事業
(認可保育園の運営、企業内・病院内保育施設の運営、
イベント保育サービス、在宅保育(ベビーシッター)サービス)



重道 泰造 社長

顧客視点を保育事業にも活かす

日々、様々と報じられている保育園の待機児童問題。この保育園事業に株式会社として参入しているのが(株)アイگرانだ。「50年後も日本が幸せな国であってほしい」と願う重道社長。未来に貢献できる企業を目指し、「サービス業の本質は相手の立場に立つこと」を信念に、2つの保育事業「認可保育園」と「事業所内保育園」を展開する。株式会社であるが故に利益重視と誤解されることもあるが、今やそんな時代ではない。社会福祉事業としての責任の下に、利用者を顧客と捉えサービス精神を発揮して事業を行っていく。他の産業では当たり前の競争の中で培われる顧客視点を保育業界でも活かしていきたいと意気込みを語る。



一番の応援団になりたい

例えば、アイグランの認可保育園全てに導入されているウェブカメラ。母親は自分のパソコンや携帯電話から子どもたちの様子をいつでも見ることができる。これは母親にとって大きな安心だ。給食も、天然だしなどの食材のほか、食器等々にもこだわる。こうした手間や費用もかかるこだわりを支えているのは、「親の代わりはできなくても、『お母さん、一緒に頑張ろうね』と頑張っている母親の一番の応援団になりたい」という強い思いだ。



重道社長には忘れられない言葉がある。それは、アイグランの保育園ではないが、子どもを保育園に預けて働いていた女性の「あの頃は、いつも謝ってばかりだった」という言葉だ。仕事の都合で遅くなり、子どもに「ごめんね、遅くなって」と謝り、保育士の先生にも「すみません」と謝る。お母さんが笑顔じゃないと子どもたちは笑顔に絶対ならない。親の代わりにはなれないが、お母さんに少しでも寄り添い一番の応援団になりたい。これも、相手の立場に立つということだ。アイグランが職場に近い事業所内保育園に取り組むのも、こうしたお母さんたちを応援したいという思いからだ。

みんな違って、みんないい

保育士の立場に立って取り組んでいることもある。『どこまで相手の立場に立てるか』ということは、事業所内保育園であろうと、認可保育園であろうと、さらにはどの地域であろうと同じでなければならないが、その理念を実現する手段は様々でいいと考え、表彰制度も取り入れている。本社ですべて決めて、そのとおりにするのは楽かもしれないが、それでは機械と同じ。最初にアイグランの理念に賛同して入社してもらったのであれば、その理念を園長のリーダーシップのもと保育士たちが工夫しながら形にする。この挑戦を大事にしている。一緒でないといけないことと、一緒ではいけないこと。その両方がある。『みんな違ってみんないい』のだ。

“心の基地”を目指す

子ども達から見たいい保育園を実現するには、「子ども達が絶対に自分は守ってもらえ、安心して過ごすことができる場所であることが最も大切だ」と重道社長は考えている。重道社長は、これを“心の基地”という言葉で表している。「明日もまたここに来たい」と思う“心の基地”を目指すべきだと考えているのだ。

これは保育士にとっても同じ。「明日もこの職場で働きたい」と思える保育園をつくるのが大事。実現できるかどうかは、園長のマネジメントにかかっている。実際に、保育士の悪いところに目を向けている保育園は離職が多く、保育士の良いところを見つけ、その頑張りを社長にも伝えてくるような保育園は離職が少ない。園長のマネジメントの根幹は“愛”だと言い切る。



地域を支える

今、医師・看護師不足のため、里帰り出産ができない地域が増えている。アイグランは、こうした社会問題の解決にも関わりたいと、中山間地域の病院内の保育園も手掛けている。待機児童という都市部の問題と思いがちだが、地域の病院で働く医師・看護師にとっても深刻な問題だ。病院内保育所があることで、みんなが辞めずに頑張ることができれば病院自体も存続できる。さらに、その地域の医療を支え、そこで暮らすお年寄りたちを支えることにもなる。この事業は、地域を支えていくという志がないとできないと、決意を語る。

未来に貢献するため、保育業界で一番の会社になりたい

「保育業界で一番の会社になること」これが、アイグランのビジョンだ。相手の立場に立つことを一番に考える会社が一番多くの子どもを預かれば日本の役に立てると考えるからだ。現在、業界5位のアイグラン。決して平たんな道ではないが、あきらめたら終わり。保育事業として相手の立場に立つことの究極は、自分の子どもを預けたい保育園であること。だから、ゼロか100かではなく、『給食全部の自園調理はできなくても、せめておやつは』というように、今が45点だったら来年は47点を目指す。このように一生100点を目指し続ける道だ。決して簡単なことではないが、「心の基地”を作ると決めたのは自分。一度決めたからにはやり通す執念だ」と熱く語る。「50年後の日本が幸せな国であることを願い、自分で決めたことはやり遂げる」この自らの言葉を胸に、ビジョンの達成に向けて全力で取り組んでいる。

(担当：隅井)